



幽玄の世界で観客を魅了した松山城新能
 酒田市・松山歴史公園

羽州庄内松山城薪(たきぎ)能が11日夜、酒田市の松山歴史公園で行われ、かがり火がゆらめく幻想的な特設舞台で地元伝承団体が能「清経」を披露した。妻と「再び生きて会おう」と約束しながら都落ちして船から身を投げた平清経と、約束をたがえたことを恨む妻との悲話。かがり火に照らされた幽玄の舞台で

炎が映す 悲話に酔う

酒田 厳かに松山城新能

進むもの悲しい物語に、観客が引き込まれていた。能に先立ち、狂言「蝸牛(かぎゆう)」も上演された。

松山能は350年ほどの歴史があり、県指定無形民俗文化財。地元住民らで組織する伝承団体「松諷社(しょうふうしゃ)」(榎本和介会長)が継承している。新能は松山能振興会が主催し、35回目。